

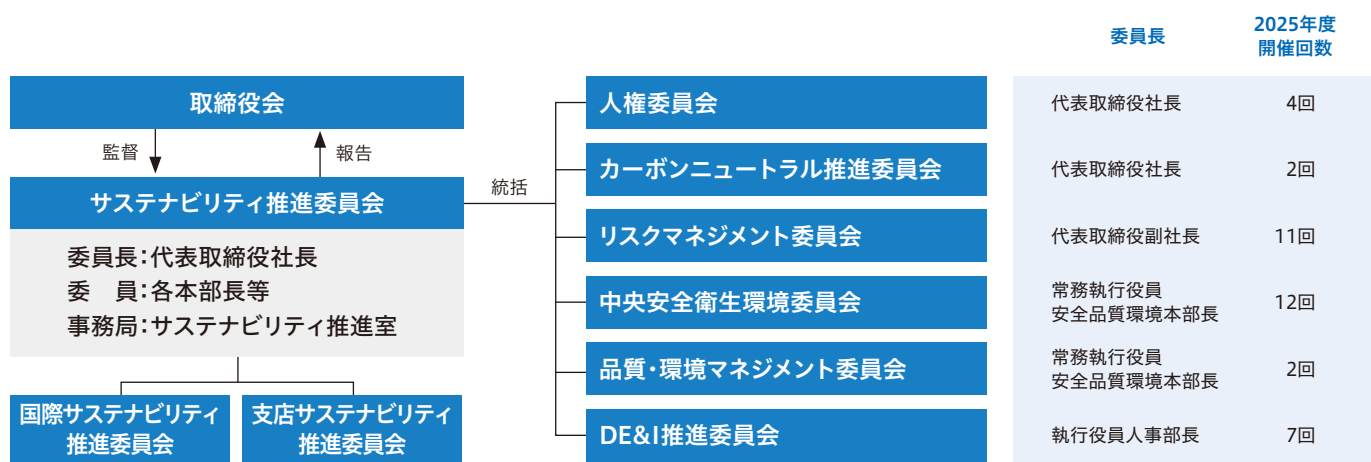
サステナビリティ経営の実践

五洋建設グループは、「良質な社会インフラ・建築物の建設こそが最大の社会貢献」と考え、ESG重視のサステナビリティ経営を実践しています。安全、環境への配慮と技術に裏打ちされた確かな品質の提供を通じて、株主、顧客、取引先、従業員のみならず、地域社会にとって魅力ある企業を目指します。

サステナビリティ経営のガバナンス体制

当社は、サステナビリティに関わる課題への適切な対応が、リスクの減少に加えて収益機会の増大につながる重要な経営課題であると認識し、代表取締役社長を委員長とするサステナビリティ推進委員会の下に、人権委員会、カーボンニュートラル推進委員会、リスクマネジメント委員会、中央安全衛生環境委員会、品質・環境マネジ

メント委員会、DE&I推進委員会を設置し、ESG重視のサステナビリティ経営を推進しています。年4回開催のサステナビリティ推進委員会では、マテリアリティ(重要課題)に特定した各課題への具体的な取組みの実践と成果のモニタリングを行っています。サステナビリティに関する戦略や進捗状況については、取締役会へ定期的に報告し、中長期的な企業価値向上の観点から監督を受けています。



web 各委員会の活動概要

サステナビリティ経営を進化させる仕組みづくり

2026年5月にレビューを行い、公表したマテリアリティ(重要課題)に基づき、サステナビリティ経営を進化させるための仕組みづくりを、五洋建設グループだけでなく取引先も含めて進めています。認知、理解促進のために、本社・支店・営業所・工事事務

所等全事務所、現場にサステナビリティ経営に関するポスター等を掲示するとともに、国内外のグループ全役職員を対象とした、サステナビリティ研修をグローバルで毎年実施(2025年度:受講率100%)しているほか、階層別研修、部門主催の研修会等で、教育を行っています。

主な施策 (対象別)	五洋建設グループ					取引先	
	経営層	本支店など		現場		技能者 (現場入場者)	経営者等
		所属長 グループ長 工事部長など	左記以外	所長 (所属長)	左記以外		
認知			サステナビリティ経営ポスター				
		マテリアリティレビューのプロセスを活用した理解促進 など			朝礼看板		
理解		会議・説明会 ↓ 会議・説明会		サステナビリティ朝礼			説明会 ↑ 安全大会での説明等
			トップ層研修	階層別研修	階層別研修		
			サステナビリティ研修(eラーニング)				
共感・ 自分ごと化			サステナビリティ表彰				
			社内外HPなどへの各種資料掲載、紹介、水平展開				

サステナビリティ経営の現場への浸透 ～サステナビリティの取組みは現場から

サステナビリティ朝礼

サステナビリティ経営の取組みを、自社グループだけでなく現場で働く協力会社の方々とも共有するため、マテリアリティの各テーマを題材とした「サステナビリティ朝礼」を2024年9月から日本国内の現場において毎週1回実施しています。2025年9月からは、増加する外国人作業員に向けて、朝礼ポスターを5か国語(日本語・英語・中国語・ベトナム語・インドネシア語)で準備しています。2026年1月からは、海外でもサステナビリティ朝礼を実施しています。



朝礼の内容をポスターや動画で共有

サステナビリティ表彰

現場でのサステナビリティの取組みを表彰し水平展開する「サステナビリティ表彰」を、2024年度にシンガポールで開始し、2025年度からは日本、香港へも拡大して実施しています。表彰式では優秀事例を経営層に発表し、社長から表彰を受けました。各現場での優れた取組みは、社内ホームページや会議等で紹介し、水平展開を行っています。



シンガポール 第2回 サステナビリティ表彰式(2025年12月)

事例

サステナビリティ表彰(日本)

優秀賞「多様な人材による安全な現場づくり(DE&I五砂会)」

2026年2月、第1回「サステナビリティ表彰」において、応募262件の中から東京建築支店の現場での取組みが「サステナビリティ優秀賞」に選ばれました。外国人作業員が4割近くになる現場で、コミュニケーション不足により安全ルールなどが正確に伝わらないリスクがありました。

チームで知恵を出し合い、AI翻訳ツールの活用推進や外国語表示の看板の改善、通常の職長会とは別に、外国人主体の安全パトロール会「DE&I五砂会」による毎週1回の安全・環境・清掃の3分野のパトロール実施などに取り組みました。言葉の壁を越えたコミュニケー



優秀賞を受賞した東京建築支店 DE&I五砂会

ションで労働災害の防止、現場の生産性向上を実現した点が高く評価されました。

「多言語での安全指導により、外国人作業員のルール理解度が飛躍的に向上し、ルール違反や危険な立ち入りが減少した」「言語別グループの朝礼で、協力会社も含めた現場の一体感が高まった」「翻訳ツールの活用を進めることで、作業員同士の距離が縮まり笑顔が増えた」などの声が聞かれました。

このような現場の自発的な取組みと「誰も取り残さない現場づくり」への想いを全国の現場へ水平展開しています。



AI翻訳ツールを使った、外国人作業員による安全パトロール

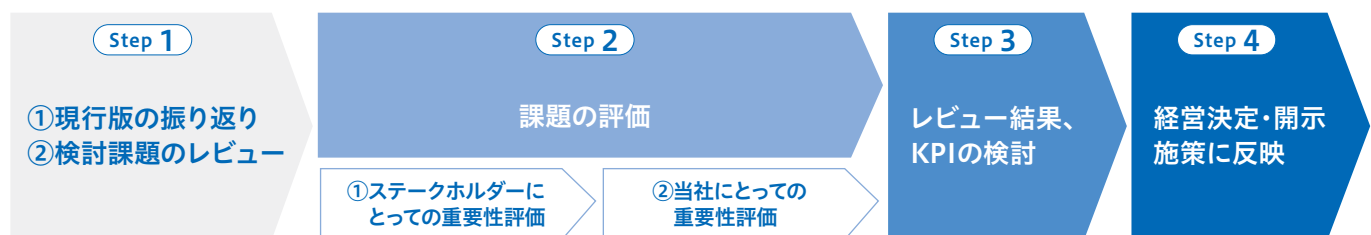
web サステナビリティ経営の実践

マテリアリティ(重要課題)

当社グループは、2026年5月に公表した中期経営計画(2026～28年度)において、「サステナビリティ経営を実践し、建設の未来を切り拓く 真のグローバル・ゼネラルコントラクター」をビジョン(目指す姿)としました。

サステナビリティ経営の推進に当たっては、企業の中長期の成長と、社会の持続可能性の両立を目指し、最優先でリソースを投入すべき課題をマテリアリティ(重要課題)として2023年に特定しました。その後の社会環境やステークホルダーからの要請の変化、自社の事業環境の変化を踏まえて、2026年にレビューを行った結果、8つのマテリアリティは変わらないものの、重要性の高い取組み項目とKPIを見直しました。具体的には、①気候変動問題への対応、②豊かな環境の創造、③良質な社会インフラ・建築物の建設、④技術開発・技術力の強化、⑤DE&Iの推進、⑥人権の尊重と持続可能なサプライチェーン、⑦労働安全衛生の確保、⑧実効あるガバナンスの推進の8項目が当社グループのマテリアリティです。それぞれに関して、具体的な方針、体制、指標を定めて進捗を管理しています。今後も、定期的にマテリアリティのレビューを行う予定です。

マテリアリティレビューのプロセス



Step 1

現行版の振り返りと、検討課題のレビュー(2025年11月～2026年2月)

- ①所管部署による、現行のマテリアリティに基づく取組み状況の振り返りを実施
- ②メガトレンドやグローバルなESG基準(SASB、GRIスタンダードなど)、同業他社の動向、外部専門家意見等を収集、分析し、検討すべき23の社会課題をレビュー

Step 2

課題の評価(2026年2月～3月)

- ①ステークホルダーにとっての重要性評価
お客様から受領するアンケート、外部調査機関、国際機関やNGOのレポートなど各種情報から、当社に関わるステークホルダーがどの課題に関心が高いかを分析し、総合的にステークホルダーにとっての重要性評価を実施
- ②当社にとっての重要性評価
国内土木、国内建築、国際、経営管理、支店から選出されたメンバー37名が参加
Step1でレビューした23課題について、外部有識者も招いた説明会などを通じて各課題への理解を深めた上で、中長期の視点から当社が認識すべきリスクと機会、当社にとっての重要性を検討

Step 3

レビュー結果、KPIの検討(2026年3月～4月)

- ・Step2の結果をもとに、ステークホルダーにとっての重要度と、当社にとっての重要度の2軸評価から、マテリアリティのレビュー案を作成
- ・主な指標および目標(KPI)を検討



Step 4

経営決定・開示、施策に反映(2026年4月～)

- ・経営層のレビューを経て、2026年4月のサステナビリティ推進委員会で、マテリアリティのレビュー結果について報告、審議
- ・取締役会の承認を経て、中期経営計画(2026～28年度)の中で公表し、施策に反映

五洋建設グループのマテリアリティ(重要課題)

ビジョン

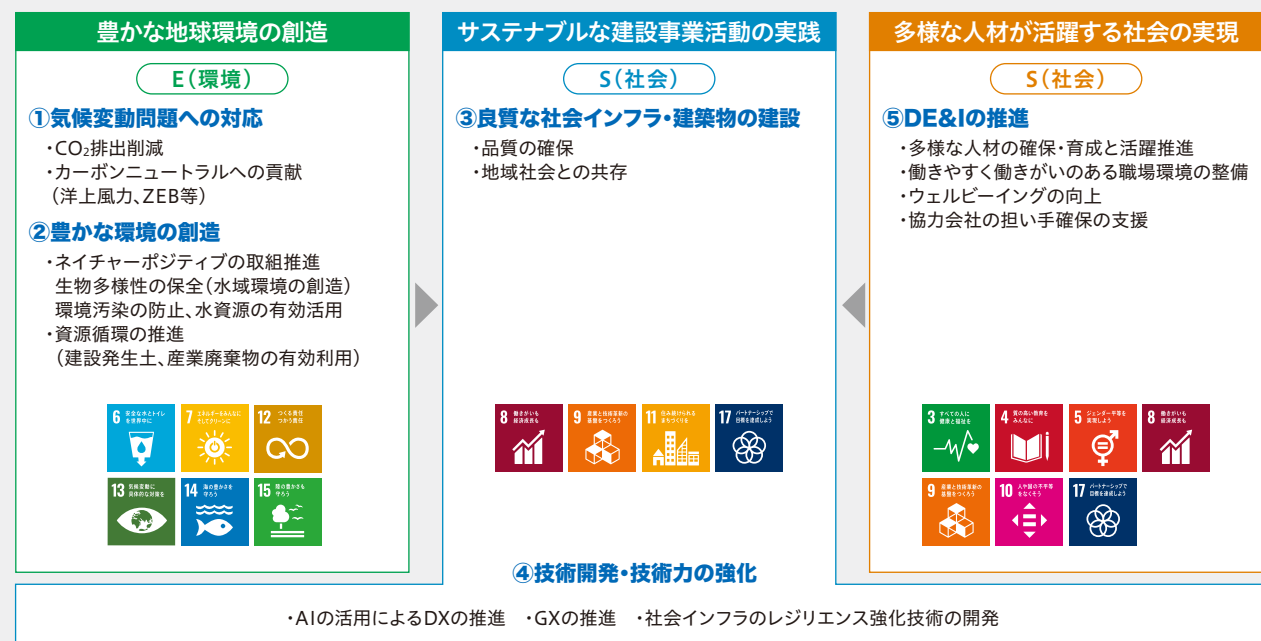
サステナビリティ経営を実践し、建設の未来を切り拓く

真のグローバル・ゼネラルコントラクター

～サステナブルな建設事業活動を通じて社会の持続的な発展に貢献する

マテリアリティ(①～⑧)

(サステナビリティ経営の実践)



(サステナビリティ経営の基盤)



リスクと機会

マテリアリティ特定、レビューのプロセスを通じて、SASB、GRIスタンダードなどのグローバルなESG基準、規制などの動向やステークホルダーの要望などを分析し、重要課題に関連した中長期のリスクと機会を把握しています。

主要なリスクに関しては、サステナビリティ推進委員会でモニタ

リングを行い、結果を取締役会に報告しています。同時に、個別リスクに関しては、サステナビリティ推進委員会傘下の各委員会などで進捗管理を行い、方針、体制、戦略などの観点から取組みの過不足をレビューし、改善につなげています。

特に経営への影響が大きく、全社的な対応が必要なリスクに関しては、全社のリスクマネジメント委員会で管理を行います。

マテリアリティ(具体的取組みと各指標) ▶ P73 [web](#) [マテリアリティ\(重要課題\)](#)